



新治小学校だより

令和元年度

11月号

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和元年 10月 31日

新治小学校 130周年をお祝いする会 ～『流れ星』に、よりよい学校であり続けることを願って～

校長 宮本 雅司

朝晩の涼しさに、秋の深まりを感じる季節となりました。校庭や校舎内には、きれいな花がたくさん飾られています。花壇や梅田川水族館、掲示物やショーケース等の環境整備も行き届いています。地域の方やコーディネーターの方々のご支援を得て、130周年を祝う会に向けて整えたものです。ありがとうございました。

10/25(金)2校時、今年で130歳を迎えた新治小学校をお祝いする会を体育館で行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、ご多用の中を参会して下さった保護者や地域の皆様、行政機関や学校の関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。

130周年を祝う会は、5,6年生の実行委員が企画・運営を中心になって実施しました。はじめに、PTA役員・実行委員の皆さんが企画して下さった『マスコットキャラクター』の発表がありました。得票数が最も多かった『にいほるん』が大賞となりました。新治の恵まれた自然環境を活かしたデザインで、これから学校のシンボルの一つになるといいなと思います。



続いて、5,6年生の実行委員が『新治の歴史』の紹介をしました。寸劇をしたりクイズを入れたりして、明治22年からの学校の歴史や校章の意味等について楽しく学びました。

また、卒業生を代表して、木村知宏様にお話をいただきました。20年前に110周年を祝う会をしたこと、梅田川水族館を作ったこと、小学生時代に学んだ森や川での活動が今の研究の仕事にも繋がっていること等、とても興味深いお話でした。子どもたちは将来、どのような仕事をするかはまだ分かりませんが、今は興味や関心のあるものにじっくりと触れてみることで、自分で考えたり伝えたりしてみること等、子どもたちに身に付けて欲しい資質・能力のメッセージを送っていただきました。

教育次長からは、ラリーやわくわくデーの新治らしい活動、恵まれた豊かな自然環境を舞台とした学びを大切にして、学校教育目標に向かって学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動をして欲しいとのお話をいただきました。そして、最後に皆で校歌を歌いました。

教育次長はじめ教育委員会の指導主事の方々からは、「児童主体の会がいいですね」とお褒めの言葉をいただきました。大人が会の準備や進行をしてしまう方が、きっとスムーズに進むのでしょうか。ただ、学校は子どもたちの資質や能力を伸ばすための『社会への準備段階』の場所です。子どもたちの手に委ねた教育活動をこれからも大切にしていきたいと思えます。日常生活場面でも同様かもしれません。時間を要しても、多少の失敗があっても、たどたどしくても、子ども自身が経験できる機会を増やし、困難を乗り越えて生き抜く力を身に付けられるように支えたり励ましたりすることが、大人の大切な役割ではないかと感じます。

会の中で、一際大きな歓声が上がったのは、学年ごとにパーツを分担して貼り付けて完成した“学校の壁画”でした。その学校の壁画の上を“流れ星”が流れ、よりよい学校になるようお願いごとをするシーンがありました。よりよい学校とは、より望ましい子どもたちの成長の姿が見られる学校なのでしょう。そんな子どもたちのより望ましい姿を求めて、大人同士が連携・協働していくことが大切だと思います。

新治小には、素敵な大人の力と恵まれた環境が多々あります。新治のよさをこれからも大切に持続して、さらによりよい学校を創れたらと願っています。

